

地域貢献研究センター・レポート

認定看護師教育課程修了式

認定看護師教育課程修了式

2008年3月26日（水）に、茨城県立医療大学大講義室において、地域貢献研究センター認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）の修了式が執り行われた。今年度の修了生16名に、小山哲夫学長より修了証が授与された。

修了証授与

茨城県立医療大学では、地域貢献研究センターの事業の一つとして、今年度から認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）を開講いたしました。平成19年10月1日には16名の受講生を迎え、6ヶ月間にわたって講義や演習、臨地実習等を行ってまいりました。そして、平成20年3月26日には、来賓として茨城県保健福祉部次長神山光男氏、および茨城県看護協会会長村田昌子氏のご臨席を賜り、茨城県立医療大学大講義室において、認定看護師教育課程第一期生の修了式を開催いたしました。

修了式では、茨城県立医療大学小山哲夫学長より、16名の修了生一人ひとりに修了証が授与されました。

学長式辞

小山哲夫（茨城県立医療大学学長）



平成19年度認定看護師教育課程受講生16名の皆様は、昨年10月から6ヶ月間にわたる真摯な努力の甲斐あって、本日ここにめでたく修了式を迎えることとなりました。皆様は、既に豊富な実務経験を積んだ看護師

でありますが、本学での半年間の講義や実習を通して、摂食・嚥下障害看護分野の認定看護師となるために必要な知識のみならず、医療現場で求められる「実践・指導・相談」の3つの役割を果たすために必要なスキルを身につけられたことと思います。私は、昨年の開講式において、「先駆者というものは何かにつけて苦勞の多いものであるが、あえてその苦勞をいとわずに認定看護師になろうという現在の心構えを是非全うしていただきたい」と申し上げました。この分野の認定看護師は全国的にも数少なく、皆様はまさに先駆者としての役割を担うこととなります。先駆者ならではの苦勞は既に身をもって感じていることと思いますが、本学の教育課程で学び終えた現在の「初心」を忘れずにこれから医療現場で大いに活躍されることを期待しております。全国各地から集まった仲間たちとの絆を大切にいただき、財産としていただければ、私どもにとってもこの上ない喜びであります。最後になりますが、皆様が患者さんや現場のスタッフから信頼される摂食・嚥下障害看護分野のエキスパートとして活躍されることを心からお祈り申し上げまして、私の式辞といたします。



来賓祝辞 神山光男氏（茨城県保健福祉部次長）



平成19年度茨城県立医療大学認定看護師教育課程を修了するにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。既にご存じのとおり、今回の認定看護師教育課程の開講は、茨城県内では初、「摂食・嚥下障害看護」の分野としては全国で二番目の開講となったわけでございます。小山学長をはじめ、教育課程を担当されました先生方、そして関係者の皆さんには、準備段階から今日に至るまで様々なご苦労があったことと思います。さて皆さんは10月1日の開講式にそれぞれが様々な思いを胸に臨まれたことと思います。そして今日の修了式を迎えるまで、順風なときばかりではなく苦しいときもあったかとは思いますが、皆さんは「認定看護師として地域医療に貢献したい」という志を崩すことなく学ばれ、今日の日を迎えられました。現在、医療の高度化や専門化の進展などは看護のあり方に多大な影響を及ぼしております。そしてQOL（生活の質）の向上を求める最近の傾向など多様な患者ニーズの広がり、看護職の果たすべき役割を一層拡大させてきました。看護師不足といった量の問題とともに、高い資質を備えた専門職者の養成が強く求められているところです。この教育課程の中で、皆さんは様々な専門的な知識や高度な技術を得ることができました。皆さんがそれぞれの地域・職場に戻られましても、摂食・嚥下障害看護の専門家として、ぜひとも茨城県立医療大学で学んだ知識や技術を十分生かされますようお願いいたします。最後になりますが、認定看護師教育課程を修了される皆さんには、健康に十分留意され、この後行われる認定試験に無事合格し、認定看護師としてそれぞれの地域でご活躍されますことを祈念いたしまして、簡単ではございますがお祝いの言葉といたします。

来賓祝辞 村田昌子氏（茨城県看護協会会長）



平成19年度茨城県立医療大学「摂食・嚥下障害看護」認定看護師教育課程の修了式にあたり、ご挨拶申し上げます。修了生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。本日、この修了式を迎えることができたのも、皆さんのたゆまぬ努力の結果であることはもちろんですが、熱心にご教示下さった諸先生方をはじめ、素晴らしい仲間の励まし、また皆さんを温かく送り出してくださったご家族や職場の皆さんのご支援など、多くの方々の限りないお力添えがあったことを忘れないでいただきたいと思っております。

皆さんにはじめてお会いした昨年10月以降、第5次茨城県保健医療計画や総合がん対策推進計画等の見直しなど、地域医療に関する多くの課題が検討されてきました。今後の医療において、皆さんのように特定の分野で水準の高い看護を実践できる認定看護師の果たす役割には、大きな期待が寄せられています。摂食や嚥下障害をお持ちの患者さんは、病院や施設だけでなく、在宅にもたくさんいらっしゃいます。ここで学んだこの資格を、今後の看護現場に存分に活かし、看護ケアの広がりや質向上のために貢献されますよう切に願うものです。看護協会としても、認定看護師がその資格を存分に発揮できるような体制づくりに、少しでもお力添えができるように努力いたす所存です。

最後に、諏訪中央病院名誉院長鎌田先生の言葉を贈りお祝いの言葉といたします。

ひととひとの中でひとは生きる
つながっているとうれしくなる
つながっているといい仕事ができる
つながるためにはひとを大切にしたい
つながるためにはルールを大切にしたい
生き生きとした輝いている職場で命はささえられる
本日は、本当におめでとうございました。

■ 修了生答辞



平成19年度認定看護師教育課程を修了するにあたり、一言お礼の言葉を申し上げます。私たちは、認定看護師としてより専門的な知識や技術を学びたいという目標に向かって頑張ってきましたが、困難なことに直面してくじけそうになることもありました。そんなとき、励ましてくれたのは、一緒に学んだ友人たちでした。この教育課程で共に学んだ多くの仲間との友情を大切に、患者さんにより専門的な看護を提供することができるよう、より一層努力いたします。最後になりますが、半年にわたってお世話になった先生方、実習先の看護師の皆さん、快く送り出していただいた職場の皆さん、そして家族など、多くの方々に感謝いたします。簡単ではございますがお礼の言葉といたします。（修了生代表：吉成有香さん）

■ 認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）の概要

近年、加齢や発達上の問題、疾病・治療による摂食・嚥下機能障害を持つ人に対して、医療機関や介護施設、在宅など、様々な場所でより専門的で高度なケアが提供できる看護師が求められています。このような状況を踏まえ、茨城県立医療大学では、平成19年10月より日本看護協会の認定を受けて、地域貢献研究センターに「摂食・嚥下障害看護」分野の認定看護師教育課程を開講しました。

(1) 教育理念

高度専門化する保健・医療・福祉の現場において、看護師は高いケアの提供が望まれています。特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践を提供することができる認定看護師を社会に送り出すことによって、看護現場における看護ケアの広がりや看護の質の向上に寄与します。

(2) 教育目的

「摂食・嚥下障害看護」の分野において、熟練した看護技術と専門的知識を用いて水準の高い看護を実践することができ、それらを基盤として他の看護師への指導・相談を行うと共に、自らの実践力を自律的に向上することができる認定看護師を育成することを目的とします。

(3) 受講定員

受講定員は20名（初年度は15名）とし、10月開講、翌年3月修了予定の6ヶ月コースとなります。

■ 第一期修了生



第一期修了生



開講式

茨城県保健福祉部長泉陽子氏をお招きし、開講式を開催した。
(2007年10月1日)



授業の風景

教室では、講義科目のほか、様々な演習・実習などが行われた。

茨城県立医療大学・地域貢献研究センター



茨城県立医療大学は、建学の理念に基づいて、開学以来、質の高い医療専門職の育成のほかに、保健・医療・福祉に関する知識と技術の創造と蓄積を行ってきました。そして、開学10周年を迎えた際に、これらの本学の資源を地域に還元することを目的として地域貢献研究センターを設置いたしました。

地域貢献研究センターは、住民、行政、医療機関、関係教育・学術団体などと連携しつつ、地域における保健・医療・福祉に関する課題について計画的な教育・研究を行い、科学的根拠に基づく解析結果や問題解決の方向性を示すことによって、地域への貢献を図っています。

【事務局】

茨城県立医療大学総務課

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 電話: 029-840-2855